

鳳 陽

第165号
平成31年1月15日

発行所 一般社団法人 鳳陽会
(山口大学経済学部同窓会)
〒753-0089 山口市龜山町3-1
TEL・FAX (083) 924-4361
E-mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp
印刷所 株式会社マルニ

—— 開学の祖「上田鳳陽」先生 (1769～1853) の教えを汲み ——



鳳 陽 館

(撮影 学26 石畠 克幸)

平成31年 新年のご挨拶

一般社団法人 鳳陽会
理事長 吉岡 博美 (学18)



明けまして
おめでとうございます。
皆様におかれて
は、健やかに
新年をお迎えのこととお慶び申
上げます。

昨年は鳳陽会として、今後の
活動の指針となるところを纏
め、全国支部長会議、全国総会
において提案することができま
した。この間、意見、要望を寄
せていただいた全国各支部の
方々、それらを整理、取り纏め
に当たっていただいた理事の皆
さんにおいては、多大なご尽力
をいただき、誠にありがとうございました。

最後になりましたが、この一
年、ご家族共々益々のご健康
ご多幸を心よりお祈り申し上げ
て新年のご挨拶といたします。

今後その経過を見
ながら、適切な時期に評価、修
正を行っていきたくと考えます。
母校経済学部も、変わらな
い学び舎に向けて施策を積み
重ねられ、何時もどこかに変化

鳳陽会としては、今年も引き
続き学部支援及び会員相互の
親睦を図っていきたくと思いま
すが、腹藏なく語り合った学生
時代に思いを寄せ、互いに助け
合い、協力し合える場として大
いに活用いただきたいと思いま
す。皆様のご支援、ご協力を宜
しくお願いいたします。

行事予定

○3月20日(水)
経済学部「卒業祝賀会」
於 ユーベルホテル松政 (山口市湯田温泉)

○6月15日(土)
第89回 通常総会
於 西鉄グランドホテル (福岡市)

学園だより

職業会計人コースについて

職業会計人コースの構想は1990年代後半からあったようです。具体的には、先ず2000年春から簿記を基盤科目にした基礎学力の整備から始まりました。

私は、この年の9月から米国に留学した2年間を除き、コースの創設から運営まで、ほぼ全てに関わってきました。2004年4月からは、コース対象の1年生が入学し、私は実質的なコースの運営を任せられ、多くの先生方に助けていただきながら、今日までコース運営に携わってまいりました。

当時、瀧口治経済学部長からは「山口のような田舎でも、『世界に通じる』会計士・税理士を育成するという看板を掲げる」と、『世界』を視野に入れてほしい。」と折々に言われました。いま思えばこれは卓見でした。

現在、会計士短答若しくは税理士複数科目の合格者はフィリピンで語学研修ができ

る仕組みを整えており、就職先の監査法人・事務所からは高く評価されています。大学間競争が激化する中、旧地方国立大学の特色を考えると、ただ会計資格試験に合格するだけでは十分ではありません。私は単なる「会計バカ」を作り出すべきではないと考えており、集団の同質化が進む社会において、これからも考え続けなければならない課題だと考えています。

税理士の育成に関しては、歴代の経済学部長に助けていただき、今年、大学院への進学道の整備することができました。

また、職業会計人コース卒業生が大手監査法人に就職するようになることも、最近の人手不足もあり、大手監査法人から大学で説明会を開催させて欲しいという要請が増えており、実施しています。

さらに、卒業生が後輩の面倒を見られるような体制作りにも動んでおります。過日、田中大丸さん(学20)に資格試験合格後の進路等についてご講演いただき、大変お世話になりました。鳳陽会の皆様には今後とも、引き続き、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



スンマ賞表彰式

11月16日、金融庁から公認会計士論文式合格者の発表があり、4年生の田淵冬馬くん、丹羽優太郎くん、横田旺大くん、3年生の種本秀雄くん、大中敢平くんの5名が在学合格し、卒業2年目の保科達也くんも、めでたく合格しました。合格率11% (対前年比0.1ポイント減)の狭き門をよく頑張ってくれたと思います。

今年短答式合格者が14名(4年生6名、3年生7名、2年生1名)と過去最高の状態で論文式試験に挑戦しましたが、それを考慮すると、やや厳しい結果でした。しかし、来年はこの14名のうち残りの9名が新たな合格者となるようにきつと頑張ってください。ものと信じています。

職業会計人コース委員会
委員長 山下 訓

「英会話教室」を開始

これまで、英会話の講義やその補習に次ぐ補習、またプール学院大学の英会話専門講師、ピエール・バビノ常勤講師を招いて行う語学留学に向けた短期英会話特訓による語学力のブラッシュアップと、数週間にわたるフィリピンへの短期語学留学、さらには帰国後の英会話の講義や、補習によるフォローアップ等々、経済学部生の語学力の向上に、段階を踏み、計画的に取り組んでまいりました。



風景講義

フィリピンへの短期海外語学留学については、今夏も37名(うち経済学部生22名)が参加しました。また、この冬には21名(うち経済学部生10名)を送り出す予定です。毎日、全て英語で数週間を過ごす、

し、目覚ましい進歩を遂げ、たくましくなって帰国してくるものと思っています。



こうした中、今年度から新たな試みとして留学生を交えた英会話教室を実施しています。

この英会話教室は、イギリス、フランス、オーストラリア、ドイツ、ハンガリー、ミャンマー、台湾といった様々な国からの国際色豊かな留学生が参加し、最初の1時間は、各種表現、スピーチの練習を行い、残りの30分間は1対1、1対3の形式ですべて英会話での演習を行うものです。

学生の皆さんは、留学生との交流を深めることにより英会話の能力向上ということだけでなく、異文化への理解を深める契機ともなり、グローバル人材の育成に繋がる

取組だと考えています。また、留学生の皆さんからも大変好評をいただいています。日本の学生の皆さんとの交流を深めることができ、大変楽しいこと、日本の友達もできるということで参加希望者も増えています。

早速、経済学部の英語部会からもお声がかかり、来春からは「スピーキング」と称して、正規授業としてスタートすることになりました。近い将来、この英会話教室は経済学部の名物講座の一つになるのではないかと期待を寄せています。



今学期の参加留学生

これからもベストを尽くしてまいりますので、引き続き、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

特命教授 山根和明

支部だより

名古屋支部

第128回

懇親ゴルフ会を開催

平成30年10月27日(土)、第128回懇親ゴルフ会を森林公園ゴルフ場(愛知県尾張旭市)で開催いたしました。

スタート時は今にも雨が降り出しそうな曇天でしたが、曇りのち晴れの天気予報を信じてのテイクオフとなりました。幸いその天気予報通りの一日となり、ラウンドの途中で一時、小雨に見舞われることもありましたが、昼食後には晴れ間も見えるまずまずのゴルフ日和となり、楽しいプレーを満喫できました。



大学6期から45期までの8名

今回は2組8名とコンペ

数でしたが、最年長の村田さん(学6)から最若手の権藤さん(学45)までの、幅広い世代の楽しく賑やかなラウンドでした。

結果は、ダブルペリア方式に大いに助けられ、川村(学22)が本場に久し振りの優勝の栄に浴することとなりました。

【成績】(ダブルペリア方式敬称略)

優勝 川村 恒治 (N75.4)

準優勝 羽根 弘士 (N77.6)

第三位 中谷 洋一 (N77.6)

【参加者】(敬称略)

村田正春(学6)、城谷昌介(学10)、羽根弘士(学12)、武藤康明(学12)、川村恒治(学22)、中谷洋一(学29)、大田栄治(学38)、権藤淳(学45)

次回の第129回は、今春5月頃の開催を予定しています。

(川村 記)

京滋支部

伝統を繋ぐ支部総会

平成30年11月10日(土)、錦秋の行楽日和の中、観光客であふれかえる京都駅前「新・都ホテル」にて支部総会を開催いたしました。山口より兵藤経済学部長と石島事務局長をお迎えし、高商36期から大学29期まで総

勢19名が参加しました。

はじめに、平成30年2月15日、逝去された第四代支部長小北裕一様の在りし日々を偲び、全員で黙禱した後、高商校歌を斉唱して総会がスタートしました。

この日の支部総会が、前身の京都支部から数えて、連続通算78回の月例会にあたり、三坂支部長からは、諸先輩方が築いてこられた伝統を継承するとともに、さらに活性化すべく近隣支部との交流も深め、オール関西で盛り上げていきたいとの力強い挨拶がありました。

続いて今回初来賓参加の兵藤経済学部長からは、母校の現況報告と協力要請がありました。

最長老96歳の中西先輩の乾杯の音頭で始まった懇親会では、冒頭に井上宏氏の尺八演奏があり、全員で荒城の月を大合唱し、酒ののど越しをよくしたら、たちまち我らの原点・共通の絆としての「山口」に帰帰し、高商、大学と卒業年次の差はありますが、懐かしい学生時代を語り合いました。来賓の石島事務局長、羽根大阪支部長のご挨拶があり、初参加の井上宏、藤村、安



谷、三氏のスピーチの後、久しぶり参加の三井、村上両氏の近況報告で盛り上がりも最高潮のところ、檄を飛ばし、CD伴奏付で全員が鳳陽寮寮歌を放歌高吟、大学学生歌を高らかに歌い上げ、大河ドラマ「西郷どん」に勝るパワーを爆発させました。

最後に前支部長の山岡誠氏から福祉に全力投球のご挨拶と力強い一本締めで、来年も元気にお会いしま



HITACHI
Inspire the Next

あなたの会社の物流に、知能を。

IoTや人工知能、ロボットなど、最先端の情報技術と物流技術を活用して、最適な物流システムをお客様に提供する。日立物流は、スマートロジスティクスで、物流の新しいあり方を生み出しています。

ビジネスを未来へ運ぶ、 SMART LOGISTICS

株式会社日立物流 www.hitachi-transportssystem.com
名誉相談役 山本 博巳(学10期)



しようと約束して、散会いたしました。

【出席者】

来賓：兵藤 隆 経済学部長(学37)、石島克幸 鳳陽会事務局長(学26) 会員：中西雄太郎(学36)、山岡誠(学5)、井上宏(学5)、井上久夫(学9)、三井敏明(学12)、藤村守(学13)、西田稔(学15)、永見忠征(学17)、小林貞夫(学17)、三坂直彦(学18)、田中正美(学19)、安谷國生(学19)、川原章(学19)、村上正典(学20)、原英一(学25)、羽根彰(学29)、伊藤節(学29)

(川原 記)

岡山支部

支部総会

3名が初参加

爽やかな秋晴れの11月18日(日)午前11時より、岡山駅近くの「サンビーチOKAYAMA」において、経専43期から大学66期までの14名の参加を得て、平成30年度鳳陽会岡山支部総会を開催しました。

開会、物故者黙祷、支部長挨拶に続き総会議事に移り、会員動向、財務報告、支部の主要行事等が報告され全員一致で承認されました。役員改選では、高見正



孝(学24)支部長の留任のほか、平井政文(学35)氏が幹事に追加選任されました。記念写真撮影後に懇親会に移り、旧交を温めたり、自己紹介、近況報告、山口での思い出話など、新旧の話題で賑やかなひと時となりました。今回は3名の初参加があり、これまで以上に懇親の場が盛り上がりました。途中、古希のお祝い紹介され、初参加の一人・松谷芳郎(43)先輩へ記念の品が手渡されました。最後に、全員で山口高商校歌、鳳陽寮寮歌、山都道遙歌を斉唱し、次回の再会を約して散会しました。

孝(学24)支部長の留任のほか、平井政文(学35)氏が幹事に追加選任されました。記念写真撮影後に懇親会に移り、旧交を温めたり、自己紹介、近況報告、山口での思い出話など、新旧の話題で賑やかなひと時となりました。今回は3名の初参加があり、これまで以上に懇親の場が盛り上がりました。途中、古希のお祝い紹介され、初参加の一人・松谷芳郎(43)先輩へ記念の品が手渡されました。最後に、全員で山口高商校歌、鳳陽寮寮歌、山都道遙歌を斉唱し、次回の再会を約して散会しました。

【出席者】(敬称略)

松谷芳郎(43)、中砂易(学4)、藤山暉夫(学5)、嶋田浩(学6)、守谷麗(学7)、高見正孝(学24)、雄龍清志(学27)、人見慶一(学27)、内藤和博(学32)、野澤佳司(学32)、平井政文(学35)、高橋正和(学47)、間宮晴希(学65)、大森正義(学66)

(雄龍 清志 記)

尾道支部

全学部合同で開催

平成30年9月15日、鳳陽会尾道支部総会開催に合わせて、全学部合同の総会を尾道グリーンヒルホテルで開催しました。残暑厳しい時期でしたが、総勢12名にお集まりいただきました。午後4時村上庄蔵支部長



うち外国人観光客は28万人を超える観光都市です。現在山陽本線尾道駅は、建て替え工事を行っています。全額JRの自己資金での駅舎建て替えは中国地方では初めての事です。JR西日本は二日に二千五百人の乗降客があり、地元の人と観光客が行き交う、新たな賑わいの場」にしたいと新駅舎に意気込んでおられます。西日本豪雨災害により観光客は一時減少しましたが、今や例年通りの観光客で賑わっています。

【出席者】

来賓：兵藤 隆 経済学部長(学37)、石島事務局長(学26)、平谷尾道市長 会員：村上庄蔵(学3)、小西理文(学15)、原田秀夫(学14)、亀田茂登(学27)

(亀田 記)

北九州支部

三経講演会

開催

平成30年10月25日、昨年度に引き続き第3回三経講演会を開催しました。北九州瓊林会(長崎大)、北九州四極会(大分大)と鳳陽会北九州支部の合同主催で、今回は岡三証券(株)グローバ



三同窓会で共催の講演会

ルリサーチセンター理事長(岡三証券前社長)で瓊林会会長の田中健一氏をお迎えしての講演会でした。演題は、「証券市場から見た日本経済」です。参加者53名が聴き入る中1時間30分にわたり、過去40年の日本経済を振り返りながら、企業純利益はどう推移してきたのか、2000年代はどのような時代であったか、今回の景気拡大は過去のそれとはどこが違うのかなど、日経平均を見ているだけでは分からない日本経済について語っていただきました。講演会終了後は、講師を囲んでの交流会で、ビール片手に和気あいあい、賑やかな交流会となりました。

この講演会は、これまで三同窓会で三経戦ゴルフ会北九州囲碁三経戦を共催してきた中で、新たに一昨年度から始めました。次は何に取り組みか頭を悩ませていますが、さらに多くの会員が参加できるような企画にしたいものだとし合っています。

なお、今回の講演会に鳳陽会10周年記念事業の支部支援費を活用しました。

(支部長 日高義隆)

熊本支部

― 幟を掲げて

支部総会を開催

去る11月10日に名勝水前寺公園近くの割烹「羅生門」にて、前年より2名多い17名の会員出席のもと支部総会および懇親会を開催いたしました。

まずは、久々に掲げた「山口高商」、「商才士魂」の幟を背に記念撮影。

支部総会では支部長から出席会員に配付している本部からの資料やパンフレットの紹介、山口で行われた鳳陽会総会、久しぶり開催の支部長会議等の話があり、幹事が直近の会計報告をし

て終了。

懇親会は柴田先輩の威勢の良い乾杯の音頭で始まり自己紹介兼近況報告では、それぞれ山口での思い出を交えて語り合い大いに盛り上がりました。出席者は皆一年一度の総会・懇親会を楽しみにしており、来年度の再会を誓う原口先輩の締めでお開きとなりました。



前年より2名増えて17名が出席

【参加者】(敬称略)

柴田晃(学7)、田代照雄(学11)、原口秀久(学11)、竹村恵一(学13)、定石公也(学14)、高田亜夫(学15)、光永忠夫(学15)、岡山韶祐(学16)、村田隆一(学17)、片山謙一(学17)、前田春幸(学24)、松永賢二(学24)、高濱三喜夫(学25)、福井正明(学

長崎支部

― 支部総会

先輩の卓話を企画

平成30年10月27日(土)、長崎駅近くの「サンプリエール」にて、他学部卒の3名を含む21名の同窓生が参集し、平成30年度の支部総会を開催いたしました。

はじめに井手支部長より、大学、同窓会の近況報告や、支部活動の更なる活性化について取り進む旨の挨拶があり、続けて今回支部活動活性化の一環として企画した九州電力の二宮先輩の卓話に入りました。



二宮浩一(学32)氏の卓話

25)岡畑良平(学36)、外山啓太(学43)、上田健太郎(学54) (片山 記)

二宮先輩からは「最近の電力事情」ということで、近年脚光を浴びている、太陽光や風力などの再生可能エネルギーと、従来の火力や原子力との違いや特徴、また電力の小売自由化の中、九州電力における電力の安定供給と再生可能エネルギーへの取り組みについて説明を頂きました。予定時間をオーバーして質問が続くほどとても興味深い内容で、各自が視野を広め見識を高めていく、非常によい機会となりました。

その後、森川先輩の乾杯により懇親会に移りました。いつものように非常にアットホームな雰囲気では進み、お酒が進むにつれ誰もが席を替わり各年代入り交えて色々な話が盛り上がりました。改めて、「山口大学」という絆のもと、世代や仕事を超えて集まり語り合う時間は非常に有意義で楽しく感じられました。

最後に、恒例のメンネルコールOB岩松先輩指揮により山大学生歌を全員で斉唱。福富先輩の「次回は各自もう一人ずつ誘って、長崎支部を更に盛り上げよう」との掛け声のもと、一本



今年度もアットホームな雰囲気で開催

締めで盛会裏に終了しました。

【参加者】(経済学部卒のみ)

井手義和(学15)、岩松大介(学16)、村山昇学(学16)、川橋哲之介(学27)、平野勇介(学28)、久松昇(学29)、森川康朗(学29)、福富卓(学30)、二宮浩一(学32)、佐野玄弥(学37)、田崎直弘(学40)、原田政和(学40)、川上隆弘(学42)、中里誠一(学44)、真浦一将(学44)、辻郷正芳(学45)、栗尾智三郎(学46)、向井孝介(学50)

(支部代表幹事 田崎直弘)

井澤金属は、金属の未来を見つめています。

【取扱品目】
 非鉄金属素材/アルミ・伸銅製品
 特殊合金/銅合金/精密鋳・鍛造品
 クラッド/FRP/超硬・研削工具
 粉末合金製品/電装パーツ
 電子部品/金型
 エレクトロニクス関連製品
 工作機械/環境改善製品/建築材料

井澤金属は、あらゆる産業分野に
 役立つ金属素材を提供する
 非鉄金属の総合技術商社です。

井澤金属株式会社
 取締役会長 井澤 武尚 (学12)
 本社〒542-0081 大阪市中央区南船場1丁目13番10号
 TEL (06) 6262-1231 FAX (06) 6262-1233
 東京支店 名古屋支店 広島営業所 神戸営業所
 URL : http://www.izawa-metal.co.jp

鮎川義介 我が道を往く (第6回)

松野浩 二(学一)



鮎川義介

苦難の船出、赤字決算の連続

明治43年6月、登記を完了して戸畑鑄物株式会社が設立され、鮎川は専務取締役兼工場長に就任した。工場の設備が完成して操業を開始したのが明治45年(1912)2月である。いざ販売を開始してみると、顧客の多くは鑄放し品でなく加工鑄物品であることが判明したので、急遽、仕上げラインを追加投資した。

戸畑鑄物の黒心可鍛鑄鉄は日本で初めて生産された革新的な鑄物であったが、日本の市場はこれを受け入れられるほど成熟していなかった。加えて日露戦争後の不況で注文は無く、工場は閑古鳥が鳴いた。当然のように創立以来、明治45年下期から大正3年

上期まで毎期連続の赤字で、資金繰りがつかなくなった。東京の山田支配人からは「給料が払えない、至急金送れ」の要請が矢のように届いているが、どうすることもできない。急場しのぎに呉海軍工廠の練習用砲弾を受注したが、見事に全品不良で返ってきた。後に合格品を納入したが、それは赤字を増幅するだけに終わった。

全国的にも、その頃大正2年は東北、北海道地方は大凶作で、民衆は警察や新聞社を襲撃し、その火の手は大阪、神戸、広島、京都などにも波及し、桂内閣は総辞職した。いわゆる大正政変である。

戸畑鑄物の経営はいよいよ厳しさを増していった。やむなく大株主の久原貝島、三井に足を運んで増資の払い込みを願ったが、すげなく「NO」の返事が返ってきた。

残り大株主は藤田家であるが、当主の小太郎氏が死去され、遺業を文子未亡人が守っていられる状況であるから、最初はお願いするつもりはなかった。しかし、「溺れる者は藁をも掴む」の思いで御願いに参上した。

ところが、文子未亡人は鮎川の願いを聞き取り、ポンと増資の40万円を差し出されたのである。

第一次世界大戦

日本は漁夫の利

一発の弾丸が世界の歴史を変えた。

大正3年(1914)6月28日、オーストリアの皇太子がサラエボで、セルビアの民族主義者によって暗殺された。これが、火薬庫の上で踊っているようなヨーロッパの政情に、動乱の火を点けた。

7月28日、オーストリアがセルビアに宣戦布告したのを契機に、ヨーロッパが連合国(イギリス・フランス・ロシア他)と、同盟国(ドイツ・オーストリア・トルコ他)の二つに割れて戦争が勃発した。第一次世界大戦である。

日本は日英同盟の関係もあって連合国に加わり、ドイツに対して宣戦を布告した。ただし戦争地域をアジアに限定した参戦である。

そして疾風のように、殆ど兵を損することなく、ドイツが中国に租借している膠州湾の青島を制圧し、さらに赤道以北のドイツ領マーシャル、マリアナ、カロリン諸島を占領した。まさに「漁夫の利」であった。大戦は、独ソの単独講和

と、中立を守っていたアメリカの参戦によって連合国の勝利で終わったが、予想に反して戦争が4年を超える長期戦となったため、参加各国は軍需品の調達に狂奔した。実質的に局外にいた日本には注文が殺到し、日本は軍需景気に沸き返った。戸畑鑄物も生産が間に合わなくなるほどの注文に恵まれた。業績も急上昇し、創業以来の赤字を一掃し、初めて8分の配当を実行した。

国内では、東京大正博覧会が幕を開け(大正3年)、辰野金吾設計による赤レンガ三階建の東京駅も開業し(大正3年)、好景気をさらに後押しした。

東京株式市場では、大正4年11月30日には、平均株価が前日の23円から一気に50円高で始まり、さらに80円高まで急騰した後、50円安に急落する波乱となり、12月3日まで立ち合いが停止された。

戦争の後には地震がくる

鮎川は冷静であった。「こんな好景気がいつまでも続くはずがない。戦争の後には地震(不況)がくる」

「干天の慈雨」

藤田未亡人の援助

後年、鮎川がこの恩義に厚く報いたのは勿論である。

「古来の事業をなすには天

鮎川は戸畑鑄物25周年記念祝賀会で、次のように感懐を述べている。

と予想し、後ろ向きの陣を張ることにした。受注よりも売掛債権の回収に全社を挙げて取り組んだのである。予想がびたりと的中した。まさに卓見である。

この債権回収は大仕事であったが、支配人井上正輔の陣頭指揮で見事な成果をあげた。戦後の不況で大抵の会社が資金繰りに苦しんでいる中で、戸畑鋳物は巨額の「ゲンナマ」を手にしたのである。加えて大正9年には倍額増資を実行して資本金も200万円になり、社内留保はさらに厚くなった。

この豊富な資金を、製造部門の合理化と拡張に投資した。

大正10年には若松市の圧延ロール専門会社の帝国鋳物(後の日立金属若松工場)の経営を引き受け、同11年には大阪に木津川製作所を設立して社長に就任した。この工場は鉄管継手専門工場として、日本で初めて継手の輸出を成功させた。(後、空襲で焼失し日立金属桑名工場に移設)

設備の近代化でも積極的な投資を実行した。溶解と焼鈍(焼なまし)に、日本で初めて電気炉を採用

し、鉄管継手・リンクチェーンの生産にコンベヤ方式による自動化ラインをつくり、大量生産の道を開いた。昭和2年には研究所を設けて可鍛鉄の理論を確立した。

私は、この時点で、鮎川の可鍛鉄製造技術は、本場のアメリカを凌駕したのではないかと思っている。

共立企業の役割

話が前後するが、大正11年、鮎川は共立企業という特殊会社を設立した。

戸畑鋳物は、大戦を契機に大きく伸びたが、企業の規模が拡大すると、鮎川一人では手が回りかねた。そこで人材の登用を考えたが、年功序列型の人事が定着している日本企業では優秀な部下を抜擢しようとしても、伝統的人情がそれを許さない。なかなか思うように権限委譲が進まない。

そこで、共立企業を設立し、そこに買収した企業を集めると同時に戸畑鋳物の年長者を送り込み、その人たちに買取会社の経営を任せた。

しかし、合併はしない。それぞれが独立しているのである。今でいうホールディ

ングカンパニーである。

つまり、一つの富士山型の組織に代えて、アルプス連峰型の組織にしたのである。その結果、プライドを傷つけずに、適材適所の人事が行いやすくなったのである。

そこで業種を問わず、いろんな会社の買収に走った。それが「鮎川のボロ買い」と言われたことは前述した。

買収の調査の対象になった会社は50を超え、世間では「鮎川のボロ買い」と陰口をたたいた。やっと成功したのは2社だけであった。一つは電話機専門の東亜電気(後の日立製作所戸塚工場)、もう一つが安来製鋼(後の日立金属安来工場)である。

戸畑製鉄所

この好景気の最中、一番苦労したのは鉄鋼の不足から需要に応じられなかったことであった。そこで戸畑地区に小規模の製鉄所を創ることを考えた。戸畑製鉄所である。

同じ頃、久原房之助から「金は出すから計画を拡大して八幡製鉄の向こうを張って製鉄所を創ろうではないか」と言ってきた。久

原は山口県出身で、鮎川より11才の年長であるが、鮎川の妹キヨと結婚している。戸籍の上では義弟になる。

そこで計画を練り直し、戸畑の海岸沿いに40万坪の土地を買ひ占めると同時に鉄鋼王ゲリーの生産方式を取り入れ、アメリカから中古の溶鉱炉一式の購入を行った。大正2年のことである。

ところが、久原は鮎川に内緒で、山口県下松で大製鉄所の建設に着手した。東洋製鉄である。これは戸畑製鉄の資金繰りと計画に影響し、蹉跌を生じてきた。

一方、戦争もヤマが見えはじめ、戸畑・東洋両製鉄の操業は、終戦に間に合いない。そこで、鮎川は後ろ向きに転向することを考えた。

鮎川の思惑は、まず戸畑と東洋を合併させ、それを八幡に引き取ってもらうことであった。

鮎川には成案があった。八幡製鉄所は早晩土地が不足するが、拡張の方向は戸畑地区しかない。したがって戸畑製鉄(合併して東洋製鉄)の土地はどうしても入

手しなければならぬはずである。鮎川の予想どおり、八幡製鉄所は東洋製鉄の戸畑地区の土地を購入した。後の戸畑作業所である。

鮎川は肩の荷を下ろした。案の定、問もなく戦争は終結し、日本における戦争目当ての計画はすべて水泡に帰した。

この間、久原との交渉を通じて、事業に対する思想の違いを発見し、将来ともに事業を行うことをしなないと決心した。「タヌキ親爺」と異名をとった久原のやり方がよほど頭にきたのであろう。

人間、鮎川義介

鮎川の「走り小使」

ここで筆先を変えて、鮎川の人間性にふれてみよう。鮎川は気が短い。寸暇を惜しんで行動し、部下にもそれを強制する。時と所を選ばず、真夜中でも電話がかかってくる。命令すると返事は、翌朝などは通用しない。すぐに返事を、こちらからかけ直さなければならぬ。部下はてんでこ舞いである。始末に負えない。

この鮎川流についていけなくて辞めた人も少なかつたのではないかと私は思っている。

事務所内での移動は常に小走りである。社長室から便所まで早足で、ボタンを外しながら入り、用が済むとボタンを閉めながら、小走りで社長室に戻る。これは多くの人が目撃している風景であった。そして、その有様を「鮎川の走り小使」といった。名付け親は、どうやら久原房之助らしい。

こんなこともあった。日産コンツェルンの傘下にあった日本冷蔵の工場の地鎮祭でのことである。小雨の中、神主の祝詞が長々と続いている。主賓席にいた鮎川はやおら立ち上がって、神主のそばに歩み寄り、後ろから祝詞をのぞきこんだ。祝詞は終わった。

空気銃に凝る

鮎川は40才を過ぎて肺炎を患い、続いて激しい神経衰弱に見舞われた。別府の別荘で療養していたが、適当な運動と気の紛れるものはないかと考えた末、空気銃の練習を思いついた。これなら体力を要しないで、

精神の統一にもなるであろうと考えたのである。

はじめは庭の中でめくら減法に打ちまくったが、さっぱり当たらない。

理屈に合わないことを嫌う鮎川の性格がここでも発揮される。「空気銃は当た

るようにはできていないはずである。当たらないのは撃ち方が悪いからである」と思い、「当たる」研究を始めた。

まず、いろんな射撃姿勢を選んで、それぞれの姿勢で数百発を射撃して統計をとったが、姿勢の数が多すぎて満足のいく結果は得られなかった。

そこで、10間に距離を固定し、まず左手の位置と握りを変えて、それぞれ千発ほど撃って統計をとり、もっとも命中率の高い姿勢を固定した。次に右手の握り方肩への当て方を変えて、それぞれ統計をとった。その結果次第に命中率が上がってきたので、次に距離を20間、30間に延ばして、それぞれの最良の姿勢を確立した。

命中率は次第に上昇し、百発百中になった。その間に試射した数は3万発を超えたという。

庭から戸外に出て小鳥を狙ったが、多い時には一日140羽の獲物があった。鮎川は一つ原則を掴んだと思っ

た。そして「まるで事業そのままではないか」と実感した。

この話を聞いた和田日出吉は言った。

「鮎川は何物に対しても、たとえそれが夢想の世界に對してさえも、冷徹な科学の計器と理論と、冷徹な経験を基礎に道を開いていく。そして単なる理論を超えた道に達する」

鮎川流墨絵

父の弥八が息子の義介に忠告した。

「お主は仕事ばかりしている無粋者じゃ。人間には仕事以外の趣味がないと老境に入って困るぞ。わしは若いころ萩の明倫館で詩を習ったのが今の楽しみになっている。お主も何か始めたらどうかの」

その頃、空気銃に凝っていた鮎川は思った。いい齡をして町で雀を撃っていては体裁が悪い。絵でも描いてみようか。

ところが、その練習のやり方がこれまで誰もやった

ことのない「鮎川流」なのである。師匠につかない。古今の名画も手本にしない。一度人の手を通った絵は実態の生命を感じる前にそれを描いた人の気持ちが邪魔をした。名画でもそのとおりに描くことはできないが、それは自分の絵ではない。

会社から帰って深夜まで熱中したが、自分の思うように筆が動かない。そこで一つの運筆練習法を考え出した。

まず、白紙いっぱい大きく正三角形を描く。その三角形の中央に真円を描く。それは三角形の直線に接する。さらに三角形と円の空間に三つの真円を描くのであるが、それは三角形の直線と円に一点で接する。

それを非常なスピードで一気に描きあげるのであるから、座っては描けない。立ち上がって、肘を浮かせて描かなければならないのである。やってみるとまことに難しい。



空気銃の練習と同じよう

にのめり込んだ。多い時には一晩200枚。合計で3万枚に達した頃、思ったとおり描けるようになった。そうすると、人物でも生物でも思ったとおりには、「鮎川の絵」を描くことができるようになった。ここに掲げたのは、彼の会心の作である。



猿まわし

久原鋳業の救済

久原房之介と田中義一 閑話休題

まずは、日産コンツェルンへの助走となった久原鋳業の救済と再建から始めよう。

昭和2年のある夜、外出先の鮎川に電話がかかってきた。

「おらは今、お主の宅に来ちよるが急用がある。すぐ帰ってくれ」電話の主は陸軍大将田中義一(山口県出

身、当時、政友会総裁である。何事が起こったかと急ぎ帰宅すると、客間を行ったり来たりしていた田中は、鮎川の顔を見るなりしゃべりだした。

「久原がおれの別宅で、胃潰瘍で出血したまま横になっ

たきりじゃ。お主は知っちゃるか」「初耳ですが、問題は何ですか」

「実は、久原鋳業の配当が後旬日に迫っているが、会社の金庫は空っぽじゃ。番頭どもでは何もできん。おらが顔を出せば団(三井合名)でも池田(三井銀行)でも佐々木(第一銀行)でも、平素懇意にしている間柄じゃからすぐにOKすると

思ったが、みんな相手にしない。あんな薄情なやつとは知らなかった。こうなるとお主に頼る以外に方法はない。一生のお願いじゃ、是非ひと肌ぬいでくれ」

当時、昭和2年の日本はひどい金融恐慌に見舞われ、久原鋳業は大赤字で、この穴埋めを田中の要請で藤田貝島をはじめとする人たちの援助で小康を保っていた。

鮎川は、久原、田中のコンビで株をやっているという噂も耳にしていたので、

巻き込まれては大変と即座に断ったが、田中は引き下がらない。必死である。「おらはそのうち総理になる。だが今、久原がこういうことになったら、それも水の泡じゃ。お主も承知のとおり、政友会はお主の恩人井上さんが尻押ししてできたものじゃ。お主がそんな了見じゃ、井上さんに申し訳がたつまいがのう」と鋒先を変えてきた。

鮎川は「一晩考えさせてください」とその場をきりぬけた。

時計の針は夜の10時を指していたが、鮎川はその足で、長姉スミが嫁いでいる三菱の総理事木村久寿太の門を叩いた。

日頃、木村は久原とは犬猿の仲であるから「そんなものは断ってしまえ」という答を予想して、それを田中の申し出を断る口実にしようと思論んだのである。

ところが、木村の答は鮎川が思いもしなかったものであった。

「これは引き受けんといかんぞ。通知を出した後で配当ができないのは、銀行の取り付けと同じじゃ。今、久原でそんなことが起こっ

たら三菱にも飛び火するし、日本中が大騒ぎになる。何としてもここは食い止めなければならぬ」「お前、男に遂げる」と焚きつけられた。

その時、日本国民が等しく案じていた大正天皇崩御の知らせを告げるラジオの音が聞こえてきた。

後始末に忙殺

その夜、鮎川がいくら考えても金策の目途が立たない。夜明けを待つて山田支配人の意見を聞いた。彼は「藤田家にすがるほかはありません」という。

そこで勇を鼓して、またもや藤田未亡人にお願したところ即座に快諾された。まさに干天の慈雨であった。

藤田家から提供された担保物件で、共保生命(藤田家の経営)から配当金支払額の150万円を借り出すことができたのは、総会前日の夕方のことであった。

これで自分の仕事は終わったと安心してしていると、「正月の休み明けには手形が回ってくるが、このままでは不渡りになる」という。そこで鮎川は久原鉱業の幹

部に会社の裸のバランスシートの提出を求めた。

照査の結果、払込資本250万円の6割相当の穴が空いていることが分かった。「これじゃ助からん」と思ったが、貝島太一が久原の監査役をしていることを知り、貝島家を動かしてみることにしたところ、貝島家は思

いで670万円が集まった。この時、伊藤文吉(伊藤博文の庶子、桂太郎の女婿、のち男爵)は借金だらけで出すものがないと、鮎川のために命を捧げるという誓詞を差し入れ、鮎川を感動させた。伊藤はその後、鮎川のために大活躍することになる。

この結果、久原の骨董品を含めて250万円の穴を埋めることができた。

間もなくモラトリアムの津波が襲ってきた。鈴木商店をはじめ、多くの銀行や会社が倒産したが、久原鉱業は一足違いで難を逃れた。

余談である。

井上侯に恩返しをするつもりで、稼働中の炭鉱と住宅だけを残して、未稼働の鉱区はもとより各家の別荘、土地、有価証券、現金等合わせて簿価1400万円のものを提供するが、以後久原とは縁を切る」と申し出た。

これに対し、久原の骨董品500万円相当を貝島に見返りに受け取ってもらうように申し出たが、貝島は固く辞退した。

なお、後日、貝島にはこの時の恩義に対して厚く報いた。

一方、社内では現業役員一同と協議の結果、各自自分の出捐を要請した。この結果、藤田同盟・日立製作所・斎藤幾太・小平浪平・岩田宙造・津村秀松の10口

久原は鮎川に同行を求めて田中邸を訪れた。3人鼎座して話しているうちに、久原はいつにない強い語気で田中の食言を責め、田中の言い訳を聞こうともせず、椅子を振り上げて田中に肉薄した。もつともだと思つた鮎川は静観している。

驚いた執事が飛び込んで仲裁した。

日産コンツェルンへの道

独創、日産コンツェルン

もともと、久原とは関係を持ちたくなかった鮎川は、これでわしの仕事は終わった、これからは戸畑鑄物の経営に戻れると思つていたところ、事態は意外な展開を見せた。

関係者の全員が、久原が政界に転じたあとの久原鉱業グループの経営を、鮎川に引き受けてもらいたいと言いつつ出たのである。

いろいろあつたが、結局、その大役を引き受けざるを得なくなり、昭和3年3月社長に就任した。

引き受けたからには徹底して取り組むのが鮎川流である。鮎川は日本では誰も実行

理研などがそれであり、これら新興勢力は旧財閥に迫る勢いを見せていた。

しかし、これら新興コンツェルンの弱点は、自系列内に頼れる金融機関を持っていないので、資金調達に難しいという点にあった。日産も同じ弱点を持っていた。

一般産業に先行して発達した金融機関の存在は企業の生命を握る存在であったが、それは旧財閥によって支配されていた。

旧財閥は同族の封鎖的な支配のもと、自己金融方式を確立していた。所要資金はコンツェルン内の自己資金で賄えたのである。

公開持株会社

この難問を解決する手段として鮎川が考え出したのが、持株会社の株式を一般に公開し、広く社会の各階層から資金を集めることであつた。自己完結型の旧財閥との違いである。

しかし、現実には厳しかった。公開持株会社を頂点とするコンツェルンなど觀念論に過ぎないと世間の見方は冷やかであつた。公開した「日産」の株も額

面50円を割り込み、12円50銭まで下落した。業績も赤字が続いた。創設3年目の昭和6年上期の営業報告書はいう。

「不況は依然として甚しく、沈滞を極めたため、引き続きこれが対策に努力したにもかかわらず成績良好ならざるはまことに遺憾…」

このころ鮎川は「日本の産金量は、金の買い上げ値段に比例する」という論文を書き、高橋是清蔵相に意見具申したところ、深く頷いた蔵相は、即座に金の値上げを行使した。

きで市場に放出したのである。日本鉱業は銅とともに金も産出しているので株式は暴騰し、花形銘柄となった。持株会社の「日産」の株価も12円50銭から急騰し、150円の高値をつけた。

昭和12年時点で、「日産」グループの会社は、日本鉱業、日立製作所、日立電力、日産自動車、日本油脂など18社を数え、その下の孫会社130社を併せると、そのスケールは三井、三菱の両財閥を抜いて日本一になった。

株主数も増え続け、5万1千804名に達した。特記すべきは、その98%は50株未満の株主であり、その比率は56%であることである。鮎川の計画どおりの株式の大衆化が実現し、鮎川の夢は見事に花開いたのである。

ご 寄 贈 (敬称略)

左記の図書等を鳳陽会へご寄贈戴きました。

- 一、「統計学入門」 山口大学経済学部教授 渋谷綾子
- 一、寄付五千万円 柳上幸江 故柳上俊英(学5)のご遺志
- 一、寄付二千五百円 山口大学経済学部バドミントン部 卒業生有志一同

同期会だより

大学16期(東京支部)

卒業50周年の会

平成30年10月24日(水)12時、東京支部の大学16期生が卒業50周年の会を開催、22名が参集しました。

所は長州に縁の深い日立金属の品川高輪和彊館にて開催。代表幹事の秋本尚志氏が司会進行役となり、開催の経緯について挨拶、物故者への黙祷を捧げ、懇親会に移りました。

お互いの名前の確認や、ゼミ、鳳陽寮、サークル活動等の思い出話に輪が広がりました。

懇親会では、全員が自己紹介、近況報告をすることになり、各自の仕事体験や健康状況とその管理方法、生活スタイル、趣味等の紹介では多才でユニークな内容に質疑応答で盛り上がり、人生経験の幅と深さを痛感し、全員が聞き入り時間の経つのも忘れる状態でした。

最後に秋本幹事のリードにより、三々七拍子で打ち上げ、お開きとなりました。(谷野 記)



3列目左から 林利之、平野雅道、福屋浩三、宮城春樹、村田和彦、古屋寿夫、山西登
2列目左から 小松三千男、古賀和之、谷野琢己、高村定男、竹川正之、土屋忠男、仲野岱作、吉見頼生
前列左から 秋本尚志、伊藤浩平、有働昭男、鶴飼泰之、河村捷彦、沢内清隆

動 静

住所変更

★高商経専の部
38 岩崎 直保

★大学の部
学25 上野 恭彦
学29 植田 宏治
学41 中森 雅之
学64 宮地 菜緒
学65 深山 慶一

住所不明者

会報が返送されず、住所をご存知の方はお知らせ下さい。

★高商経専の部
37 永光 豊喜
44 杉岡 延治

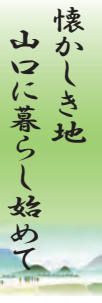
★大学の部
学1 中村 博
学1 松田信太郎
学3 原田 信美
学7 大野 英信
学9 安弘 尚史
学11 河本 尚志

学15	武居 清人	学21	加来 敏夫	学21	河野 明	学23	大村 典久	学29	岡部 正美	学30	小田 一成	学37	八丁佐百合	学46	那須 謙	学49	吉村 治朗	学53	田中 実	学54	國中 一	学64	小泉伽奈実	学64	那須 隼輝	学64	牧野 篤士
-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

謹んでお悔み申し上げます。



学65	榎本 光	学65	北村 栄治	学65	我有 朱蘭	学65	我 清田	学65	北村 雄也	学65	北村 松永	学65	北村 圭介	学65	北村 大季	学65	北村 彩華
-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------



淵上洋一(学13)

私は昭和40年に学窓を巣立ち、勤め人として社会に出た。勤め人として社会に出た。勤め人として社会に出た。...

年(中学校時代)を過ごした幼友達が遙々福岡から来た。幼友達が遙々福岡から来た。幼友達が遙々福岡から来た。...

この学部(経済学部)の歴史を殆ど知る意欲もなくなつた。この学部(経済学部)の歴史を殆ど知る意欲もなくなつた。...

中でも岩田宙造(司法大臣)、鮎川義介(日産グループ創業者)。中でも岩田宙造(司法大臣)、鮎川義介(日産グループ創業者)。...

を連れて莫産敷の上で弁当を食す風景を目の当たりとする。を連れて莫産敷の上で弁当を食す風景を目の当たりとする。...

てくれる。春の桜も美しく、流れに沿って清澄な空気を吸いながらそぞろ歩きをすれば、遙か彼方に鳳翻の山脈をみる事が出来る。...

Advertisement for Daichu Co., Ltd. (大中物産株式会社) featuring images of products and contact information.

柳上奨学金 制度の創設

この度、柳上幸江様から鳳陽会に5千万円のご寄付をいただきました。心から深く感謝申し上げます。

今回の寄付金は、宇部市で税理士事務所を開設し、職業会計人として活躍されたご主人の故柳上俊英氏（大学5期・昭和32年卒業）のご遺志により、山口大学経済学部で税理士や公認会計士、職業会計人を目指す学生の皆さんの育英資金として活用し、人材の育成に役立てて欲しいとの柳上幸江様の願いを込めてご寄付いただいたものです。

東京ほうよう句会

初御空澄み連峰の上に富士
みんなみの香り拵げし花舖初荷
初御空峰より峰へ朱の鳥居
若菜摘む畑地に心新たにす
賀状書く次なる年はEメール
産土の杜ほのぼのと初明り
若き日の友懐かしみ賀状書く
山海の幸の溢るる雑煮椀
一片の雲無き今朝の初詣

國本 桂伸(高37)
河内 朝生(学2)
重田 青都(学2)
重永 泰彦(学2)
武田 伸昭(学7)
中川 弘喜(学7)
山名 和雄(学7)
山名 信代(学夫人)
立石 健三(客員)

士を目指す職業会計人コースの学生の皆さんを対象とする給付型の奨学金制度「柳上奨学金制度」を新たに創設することとしました。経済学部の職業会計人コースには、会計専攻と税務専攻の二専攻が設けられており、平成16年4月にスタートして、今年で15年目を迎えました。この間、卒業生を含め日商簿記1級合格者は176名、税理士試験合格者は11名、また、公認会計士試験合格者は47名を数えています。

特に、最近では昨年、今年と連続して卒業生を含め6名が公認会計士試験に合格しています。また、昨年は全国の税理士試験合格者795名のうち大学在学中の合



格者が3名という難関を突破して、1名の合格者も出ています。こうした状況の中、今回の「柳上奨学金」の創設は、職業会計人を目指す学生の皆さんを大きく後押しし、経済学部のさらなる飛躍の契機になるものと期待しています。

鳳陽会では、経済学部との緊密な連携の下、「柳上奨学金制度」により、職業会計人コースへの支援を行うとともに、引き続き、寄附講座や海外語学短期研修を始めとする様々な取組を支援し経済学部の教育及び研究等の一層の充実に貢献してまいりたいと考えています。

文責・石嶋

本号の内容

新年のご挨拶	1
学園だより	2
支部だより	3〜5
鮎川義介我が道を往く (第6回)	6〜10
同期会だより	10
動静	10
懐かしき地	11
山口に暮らし始めて	11
柳上奨学金制度の創設	12
東京ほうよう句会	12

事務局から

鳳陽会寄附講座を平成30年度後期から再開しました。再開に当たっては、担当した先生のご意見も踏まえ、これまでの講義形式を全面的に見直し、講師と受講生が相互に意見交換を行うウェブ形式に改めました。講座は、講師一人が3回の講義を受持ち、今年、担当している成富敬先生（前経済学部長）の思いである「卒業後にも受講生と講師が連絡し合う人間関係が築けるような講座」を目指しています。寄附講座は、来年度以降も実施する予定です。講師をやってみたいという方は、是非、事務局までご一報ください。(一)

その未来に、 できることが あります。

私たちYMFGは、3つの銀行ネットワークや、資産運用、ご家族の人生設計、企業のコンサルティング、地方創生など、グループ力でお客様のご要望にお応えします。

